



# TWEET

## 子育てのふるさと

「ぐるんぱって言って、結構良いですよ。」ある母親教室で知り合いになったママ友が教えてくれた。これがぐるんぱを知るきっかけだった。寒い冬の日、当時1歳10カ月の長女の手を引き、生後5カ月の次女を抱っこして、初めてぐるんぱを訪れた時のことを今でも覚えている。スタッフさんからぐるんぱ、もりもりキッズ、もりのようちえん、きのくにこどもNPOの説明を受けた。私は家に引きこもった生活をしていたので、その中でも、もりもりキッズの活動の主旨には興味を示し、すぐに入会を決めた。

ぐるんぱにはしょっちゅう通った時期があったが、スタッフさんはいつも温かく声をかけてくださった。自分はもともと神経質な性格だが、子どもが生まれてその傾向が一層強くなった気がする。例えば、周りから言われたおそらく悪気のない言葉や、習い事で子どもの名前を間違えて紙に書かれ嫌な気持ちになったことがあったが、どんな場面でも言い返すことができず、軽く流せなかった。子ども達と自分という、人との関わりの少ない生活のなか、ストレスがたまっていった。そんな時はぐるんぱに行って、自分からスタッフさんに声をかけ、他愛無い話をしにいたり、話を聞いてもらったり。そうすると私の気が紛れ、子どもも遊べて家に帰れた。聞いてもらう話の内容は愚痴だったことも多々あったが、その時は、それは腹立つなあ！と一緒にあって怒ってくださった。長女の幼稚園選びの相談をした時には、長女の性格を等身大に捉えながら、アドバイスをくださった。嬉しかった事、例えば、2歳の夏から始めた長女のトイトレが思うように進まなかったのだが、年中の秋になってようやくオムツが外れた。その報告をしたら本当に喜んでくださった。「産後」という言葉で片付けていいのかわからないが、産後間もない私の喜怒哀楽を否定することなく、共感してくださった。

ここまで決して平たんな子育て道ではなかったが、母親となって約5年。ぐるんぱで過ごしたさまざまな時間や、もりもりキッズの里山の自然、そこで出会った仲間と接し時に励まされたこと、そして何といても子ども達の可愛らしさが、今の私を培い、育ててくれたような気がする。

今春、次女が幼稚園に入園予定である。お世話になったぐるんぱに行けるのもあと少しとなったが、我が家の子ども達を小さな頃から知ってくれているスタッフさんといつでも気軽に話しかけると思うと心強い。私にとって子育てのふるさととも言える場所が出来て、良かった。これからも一喜一憂しながら子育てしていきたい。

サバンナシマウマ

このコーナーはぐるんぱママの「つぶやき」を随時掲載します。お楽しみに！投稿も大歓迎です！